



平成26年度通常総会が開催

平成26年2月8日(土)午後2時より『さいたま市産業文化センター』に於いて通常総会が開催されました。

(1) 総会設立宣言(矢野副会長)

会則第24条により、会員の出席33名、委任状提出26名、計59名、現会員84名の2/3以上の出席により総会が成立したことを宣言し開会された。

(2) 会長挨拶 杉浦啓泰会長より挨拶

(3) 議長選出 池田文明副会長を選出し、議事進行

(4) 議事録署名人

石川正之理事と中緒知和子理事が選出された。

(5) 議事

第1号議案 平成25年度活動報告

杉浦会長が活動報告について説明を行い、本議案は原案通り承認された。

第2号議案 平成25年度決算報告

柴田理事が議案書に基づく内容を説明した後、滝沢会計監査より監査報告が行われ、本議案は議案通り承認された。

第3号議案 役員改選

会則第15条により、平成26年1月18日開催の理事会で推薦された理事及び会計監査候補者について説明され、本議案は原案通り承認された。

*新役員の発表

池田議長より、1月18日開催の理事会で、理事の互選により会長に杉浦啓泰氏を再任し、新体制を下記の新役員で構成することが報告された。

*平成26年度役員

会 長：杉浦 啓泰、

副会長：池田 文明(広報委員長)、間室 伸子(研修委員長)、矢野 信行(総務委員長)

理 事：上田 奈美(広報委員)、柴田 貢(総務・会計委員)、中緒 知和子(広報委員)、

柳下 和之(研修委員)、本田 陽子(広報委員)、宮田 はつ美(広報委員)

吉田 一子(研修委員)、石川 正之(研修委員)、石原 保義(研修委員)

豊田 三代子(広報委員)、玉置敦子(研修委員)

会計監査：滝沢 実



第4号議案 平成26年度活動計画並びに平成26年度予算(案)の報告

杉浦会長が議案書に基づき説明し、研修計画(案)を間室副会長が説明、本議案は原案通り承認された。

(6) 終了宣言

矢野副会長が通常総会の終了宣言を行った。

【杉浦 啓泰 新会長 挨拶杉】 (2014年度のスタートにあたって)

グリーンアドバイザー(GA)の認定母体である日本家庭園芸普及協会は平成24年4月1日より、公益社団法人として新たなスタートを切りました。昭和63年に家庭園芸の普及・啓蒙活動の事業を展開することで、家庭や地域社会で花や緑を育て、潤いのある生活・環境づくりをし、人のつながりの大切さを感じることができる組織として発足しました。25年目の再出発です。

埼玉グリーンアドバイザーの会は平成9年に設立、本年度で18年目を迎え、会員数は約100名で推移しています。

GA埼玉の活動方針は、毎年掲げていることですが、3項目です。①研修会の充実。②全国のGAの会との交流。③園芸関係の各種イベントに協力。

研修会は具体的な日程を年初に決定し、多くの方々が参加しやすくしました。そして人気のある研修会は毎年継続して開催しています。全国のGAの会との交流は、各会の研修会などのイベント情報を速やかに会員に流すことが必要です。イベントでの協力は、年々増えてきている自治体などの公共団体や民間のイベントに講師などで参加することです。GA埼玉の会員の積極的な協力をお願いいたします。

5年目に入った園芸CPD制度では、間室伸子副会長が埼玉GAから初めて「園芸ソムリエ」となりました。

「基礎ポイント」と、活動報告に基づいた「活動ポイント」を集計し、一定のポイントを得ると認定されます。まだ未登録の方は是非協会に登録をお願いいたします。

日本フラワー&ガーデンショウは第24回目になります。幕張メッセ9番ホールで3月21日～23日に開催されます。ショウのアドバイザーに、昨年度のGA埼玉の総会で記念講演をいただいた玉崎弘志氏と、NHK趣味の園芸でお馴染みの柳生真吾氏が就任、ショウのコンセプトを「春一番!最新!最旬!花空間」とし、テーマカラーを「イエロー」で新たな1歩を踏み出すこととなります。GAによる各種のイベントも新企画があります。ぜひご来場ください。

フェイスブックも始めています。「さいたまグリーンアドバイザーの会」で検索してみてください。これからもしっかりと会員の皆様のお役に立つような活動をしますのでよろしくお願いいたします。

総会終了後、15時～17時まで小笠原左衛門尉亮軒氏による記念講演『江戸庶民の園芸事情』が開催された。

記念講演終了後は、2階レストランで小笠原左衛門尉亮軒氏も出席された懇親会が開催されましたが、大雪のため電車等の交通機関の支障が生じてきたために、楽しい親睦の時間も、早々に切り上げ解散となりました。

ご苦勞様でした



【研修報告】 埼玉 GA 総会記念講演 名古屋園芸株式会社 小笠原左衛門尉亮軒氏

テーマ：江戸庶民の園芸事情



園芸文化が盛んだった江戸時代、庶民が園芸をどのように楽しんできたか江戸時代に描かれた多くの浮世絵や図譜を見ながら、1月（睦月）～12月（師走）まで、代表する植物を上げて頂きながら、お話を展開して下さいました。1つ1つの浮世絵を見る事で、園芸が俳句や和歌と共に庶民に親しまれていたことを理解することができました。また、植物毎に番付表を制作し、品種を比較して愉しんだり、また139種の梅の花を描いた『梅花正図』や椿480種の花が実寸大で描かれた「椿花帖」等々をはじめとする図譜を見ることにより、江戸時代の人々が多くの品種をすでに作っていた事に驚くと同時に、一つ一つの花が細かく丁寧に描かれている絵の素晴らしさにも感動を覚えました。そしてカエデ、オモト、イワヒバ、ナンテンなどは、花の美しさを楽しむよりも、葉の模様や湾曲な姿など、変異株の珍品を追求、楽しむ傾向にあった事が日本の江戸園芸の特長であったことを知ることができました。加えて、植物を植え込んで

いる鉢の美しさ、素晴らしさも現代にはないこだわりを感じ、暮らしの豊かさ、文化の高さに驚かされ、感銘を受けました。

（記事：上田奈美）

【イベント情報】



今回のショーでは、ガーデンデザイナーの玉崎弘志氏、園芸家の柳生真吾氏のお二人を総合プロデューサーにお迎えし、新しいコンセプト「春一番！最新！最旬！花空間」で開催します。

また、会場レイアウトを一新。会場中央に、やすらぎの空間「芝生広場」とそれを囲む「イベントコーナー」で構成された「セントラルパーク」をつくりました。そこから放射状に延びた道を通って、会場内の様々な展示へと向かうことができ、会場全体の見どころを案内するコンシェルジュもいます。

「次は何を見ようかな？」と迷ったときは、ここでひと休みしながら楽しい思案のときを過ごしてください。

今回のショーのテーマは、「あなたの暮らしに花プラス！」とし、テーマカラーを「イエロー」としました。植物を育てる喜びや感動を一人でも多くの人に感じとって頂けるよう、準備を進めております。

入場料：700円

【新入会員】

栗田 渡（22-243）、須永真理子（22-386）、高橋和子（22-422）
新国智宏（22-561）、吉田歌子（22-805）、吉田敏子（22-806）
どうぞよろしく！

【柳下 和之氏（園芸研究家）のコラム 第17回目】

シロバナタンポポ

タンポポと言えば黄色の花を思い浮かべる方が多いと思いますが、このタンポポは名前の通り白い花を咲かせるタンポポ。

写真の個体は桜草で有名な田島ヶ原で撮影しました。

最も西日本ではこのシロバナタンポポの方が多く自生する地域も多いとか。（実際に行脚していないので物の本の話ですが・・・）タンポポは白い花が当たり前と思っている方もいるかもしれません。

セイヨウタンポポの花期は長く、7月頃まで花を咲かせている個体も見かけますが、シロバナタンポポの開花期間は短く、関東だと2月下旬～4月頃まで。

5月の声を聞くと花を見る事はとても少なくなるのは日本産タンポポに多く見られる特徴。

日本はもともと草原のような環境が少なく、雨が多いので、直ぐに背の高い草が生い茂る自然の中で生き残るため、草が茂る前の早春に開花と結実を済ませ、子孫を残す生活サイクルを編み出したのでしょう。

しかし近年は人間が草刈りをするので、逆にのべつ幕なしに花を咲かせるセイヨウタンポポの方が繁殖に有利なのは何か皮肉な話です。

タンポポには園芸植物としてのイメージが皆無ですが、江戸時代には目を向けていた方もいたらしく園芸品種も数十種存在していたとか、江戸の園芸家の執念と育種技術、恐るべしです。

【編集後記】

平成26年度通常総会で役員の変更が行われ、会長に杉浦氏が再任され、新役員として玉置敦子さんが就任し、新体制の16名で2年間頑張りますので、変わらぬご支援ご協力をお願い申し上げます。

尚、理事として長年ご協力頂きました庄野幸子さん、吉田貞子さんが退任されました。長い間、ご協力を頂きまことにありがとうございました。

新しいアイデアやご意見などございましたら積極的ご提案ください！お待ちしております。

